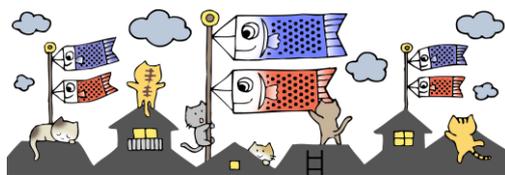


図書館ひろば



「読み聞かせボランティアのためのスキルアップ講座 PART4

「本を選ぶこと

～あなたは 子どもたちに何を届けますか」

2016年2月29日(月)午後、大野北公民館中会議室にて、JPIC 講師で、公共図書館で働いておられる児玉ひろ美さんをお迎えして、「読み聞かせボランティアのためのスキルアップ講座」が開催されました。

2010～15年までの学校図書館読書調査を紹介していただき、子どもと本の周辺の現実を知った上で、5グループに分かれ「読み聞かせの絵本で大切なポイント」をテーマにワークショップを行いました。

★子どもと本の周辺から

読む習慣は浸透していますが、漫画的な絵、避けたいような本や、お小遣いの範囲で買える本(ライトノベル等)を選ぶ子どもが多いので、ボランティアが「開いて読むと面白いよ」と伝えたり、「子どもだけでは手に取らない本」を取り上げる必要性があり、それを伝えられるのが、読み聞かせのいいところです。



読み聞かせをしてもらった子どもたちは1ヶ月の読書量が多く、書いたり調べたりするのも、好き、また、想像力があるので、人の心を思いやれる、という統計が出ています。「赤ちゃん絵本期(～1歳)」「もの絵本期(～2歳)」「子守話期(～3歳)」という階段を登ってきて、きっちりと大人との関係が出来ていないと「昔話期(4～6歳)」に、昔話やファンタジーのような想像力を必要とする話は、「ありえない!」ということになり、おはなしの世界に入れません。聞いて見ていれば、楽しいことがあるのに、それを体験していないから、楽しさがわからないのです。飛び級ではなく、その子に相応しいものを届けなくてはなりません。



★本を選ぶ上で、心がけたいこと

- ①子どもが 図書館などで 入手できる本
- ②授業内容に関係しそうな時は、先生に必ず確認をする。 (内面に続く)

- ③子どもの望む自己肯定感(こうなったらいい)や達成感(出来てよかった)を大事にして選ぶ。
- ④インターネットの書評を 選書の参考にする人がいるが、投書は絶対ではない。必ず、自分が納得して本を選ぶこと・自分の感性を信じるのが大事。そのため自分の感性を磨くこと。
- ⑤多文化の子どもたちに・宗教などによるデリケートな問題があるが、科学の本なら大丈夫なことが多い。
- ⑥本選びに迷ったら、まずは長く読まれている本を選ぶのがいいと言われるが、読む人と、聞く人(子ども)との関係が良ければ良いものとなるし、 関係が悪ければ、良い本も駄作となってしまうことがある。

★グループに分かれて

後半は、持ってきた本を読み聞かせしたり、選書のポイントを話し合いました。各グループの全体発表では、選書のポイントが色々出ましたが、共通していたのは、「自分が納得した本」や「子どもがもう一度読みたいと思う本を選ぶ」でした。

学習会終了後も、先生が紹介して下さった本を手にとったり、参加者同士情報交換をされていました。

★講座を終えて

今回の学習会は、たくさんのグループが「困っていること」の上位に上げる「本の選び方」を テーマにしました。

「本を選ぶこと」は 確かに難しくウケを狙ったり、反応がある本を選んでしまいがち

ですが、今回の講座が読み聞かせを聞いてくれる子どもたちの心に寄り添う本を選ぶ一助になれば…と願っています。



図書館と市民をつなぐ会・相模原 会員募集中！

一緒に活動していただける正会員を募集しています。

また、賛助会員として協力していただける方も募集しています。

年会費 正会員 1000 円 (学生 500 円)

 賛助会員 1口 2000 円



学校図書館大交流会 2015 報告

「学校図書館大交流会 2015」が3月12日に神奈川県立相模原中等教育学校図書館で行われました。

はじめに、会場校学校司書の醍醐さんから学校図書館の利用状況についての説明がありました。中高一貫校なので、幅広い蔵書構成が必要であること、中学生の利用率が高いとのことでした。

続けて3つの実践報告。テーマは「ネットワークのつくりかた」です。

座間市立図書館の三村敦美さんからは、市立図書館とのネットワークについて、学校同士の相互貸借も市立図書館の物流システムを使うことができることや、学校司書は派遣のため、任用期間が6月から2月までしかないという問題点を話されました。

次に、神奈川県立高校のネットワークシステムについて、横浜南陵高校学校司書の田子さんから報告されました。教育委員会ネットワーク内に蔵書紹介システムと掲示板が設けられ、そこでレファレンスや相互貸借を行うことができる。さらに、県立図書館と県立高校の間にも相互貸借システムが別があり、それぞれ使い勝手に合わせて2つのシステムを使い分けているとのことでした。

最後に相模原市図書整理員から、現在の勤務状況や有志勉強会のような報告されました。勉強会は市の研修では足りない実践的なスキルの取得や、1人職場の不安を解消している場であること。今後は中学校区内レベルでの連携を図っていききたいとも。さらに「図書館と市民をつなぐ会・相模原」の活動についても報告されました。

2016年度総会が開かれました

新しい年度のスタートにあたって、4月17日、大野北公民館にて、総会が開かれました。来賓として、市立図書館館長の細谷正行氏、相模原市書店協同組合理事長の中村宣勝氏をお招きしました。

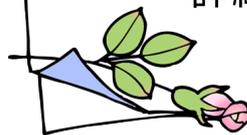
細谷市立図書館長は、TwitterやFacebookでの情報発信を開始したこと、図書購入費については少しずつ増額しているので利用者の希望するものを購入していくことなどを話されました。

書店組合理事長の中村氏は、今年で22年目に入る書店組合のこと、「本」の定義がなく軽減税率の適用を受けられるか疑問であることなどを話されました。さらに、相模原市は良い文化をもっているのもので、その中で図書館に協力していきたいと嬉しいお言葉もいただきました。

つなぐ会の活動は8年目です。今年度も4つの部会を中心にすすめます。夏の調べ学習講座は、市立図書館、橋本図書館の他に、相模原分館でも行うことになりました。最大の事業である「図書館ひろば」では今年も全員で取り組み、新たに古本市も計画しています。

そのほか、学校図書館の学習会、読み聞かせグループの交流会なども予定しています。

「第8回 図書館ひろば」
2016年11月27日(日)
相模原市立図書館にて
詳細は次号で



八王子に学校図書館を育てる会



つなぐ会の会員である齊木治枝さんに、「八王子に学校図書館を育てる会」についてうかがいました。

「八王子に学校図書館を育てる会」は設立から13年目に入りました。無人の市内108の小中学校図書館に司書の配置を願い活動を続けてきました。八王子市では平成22年度から学校図書館サポート事業が始まり、24年度には6名の学校司書(嘱託)が17校に派遣され、今年度27名の学校司書が週に一日ではありますが、全校に配置されました。教育長への要望書の提出、市議会への要請なども含め、長年の地道な活動が実り始めています。

設立以来、学校図書館の「人」について学び続けてきましたが、平成26・27年度の活動はく子どもゆめ基金助成事業『みんなで支える学校図書館』>として、アーサー・ビナード氏や野口武悟氏の講演会の中で、絵本の読み解き方や、特別なニーズのある子どもたちの利用しやすい学校図書館について等を学びました。恒例の広瀬恒子氏による子どもの本のお話は、会員含め多くの参加者が毎年楽しく新しい本の情報に触れています。このほかに、学校図書館ボランティア交流会と読書会を行いました。本の紹介方法として知ってい

ただくために、あわせて会員によるブックトークの実演も行いました。

ゆめ基金助成事業の他に市内・市外の学校図書館見学会、会員によるパネルシアターの学習会などを実施、行政に向けては、文教経済委員会との面談、要望書提出・教育長面談を重ねてきました。

こうした事業は広報誌「学校図書館 Take Off」を作成し、公共図書館や各学校に送付して、学校図書館への理解を広めています。

私たちの会は「学校図書館に人が入ること」だけを願っているではありません。図書館がどんな役割や内容を伴って、子どもたちの学習や読書活動に寄与していくのか、そこに関わる「人」のありかたも含めて、共に考え、学校図書館を「育てて」いきたいと願っています。



広瀬恒子さん講演会
「子どもの本を楽しもう」
(2015年12月6日)

編集後記

熊本を中心とする九州地方で地震が起こり、今も揺れが続いています。図書館でも大きな被害を受けたと聞いています。被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。1日も早い復興を願っています。

災害が起きると、静かに本を読めることが当たり前ではないと感じます。「調べ学習講座」や「図書館ひろば」で、今年度新たな事業を始められることに感謝しながら、1年間真摯に取り組んでいきたいと思えます。(Y.N.)

図書館ひろば 第13号 2016年4月30日発行

〒252-0302 相模原市南区上鶴間4-23-3 Tel 090-4947-7147 (代表 山本)

Email info@toshokan.org ホームページ <http://toshokan.org/>